

南西アジアローバル展開可能性調査

-バングラデシュ衣料品産業調査 -

日本貿易振興機構（ジェトロ）

調査部・ダッカ事務所

2025年3月



ダッカ近郊の縫製工場（ジェトロ撮影）

目次

- I. 調査方法
- II. バングラデシュの衣料品産業に関する概要
- III. 2024/2025年度の輸出動向
- IV. 衣料品輸出推移の分析
- V. 日本における衣料品の輸入動向
- VI. 業界団体の取組と現状分析（BGMEA・BKMEA）
- VII. 縫製工場運営者による現状分析
- VIII. 日本との経済連携協定（EPA）の可能性
- IX. バングラデシュにおける衣料品輸出市場
- X. バングラデシュの縫製工場労働者の賃金
- XI. 縫製産業に対する産業政策・支援策
- XII. 競合国とバングラデシュとの比較

付録

I. 調査方法

1 | 調査方法

アプローチ

- 定性的データと定量的データを組み合わせた「混合手法アプローチ（MMA）」による調査。

二次調査（先行研究、文献・二次情報の確認）

- 業界レポート、貿易統計、政府出版物、学術論文、市場調査報告書などを活用し、バングラデシュの縫製産業、世界貿易の動向、経済政策に関する既存データを収集。

統計分析

- ITC Trade Map、バングラデシュ輸出振興庁（EPB）、バングラデシュ銀行（中央銀行、BB）、ジャーナル論文などのデータを活用し、貿易額、投資フロー、輸出動向を分析し、競合国と比較したバングラデシュの世界的な地位を評価するために比較分析を実施。

インタビューと定性調査

- 約10社の企業（HSコード61と62の対象企業）、バングラデシュ縫製品製造業・輸出業協会（BGMEA）、バングラデシュ・ニット製造輸出業協会（BKMEA）と連携してインタビューを実施し、業界の課題、可能性、日本企業に対する機会についての考察を行った。ジェトロ担当者も一部インタビューに同席した。

縫製産業に関する主要国との比較表

- 生産コスト、貿易政策、労働市場の状況、投資インセンティブに焦点を当て、中国、ASEAN諸国、東アフリカ、南西アジアと比較して、バングラデシュが持つ優位性と欠点を評価した。

データ統合と検証

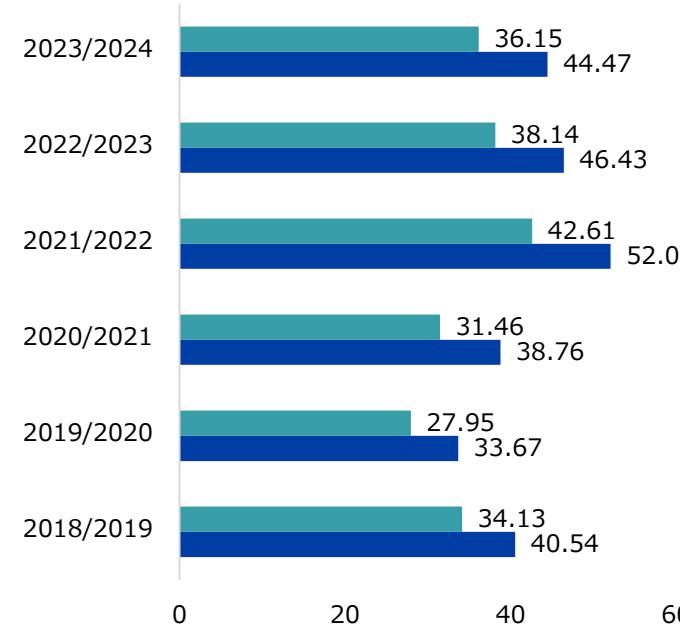
- 分析の正確性と信頼性を確保するために、定性的・定量的な調査結果を検証した。

II. バングラデシュの衣料品産業に関する概要

1-1 | バングラデシュの衣料品産業に関する概要 (1)

- 2021/2022年度のバングラデシュの衣料品の輸出額は426.1億ドルで、過去6年間で最も高い数値を記録している。

会計年度別バングラデシュにおける輸出総額の推移
(10億ドル)



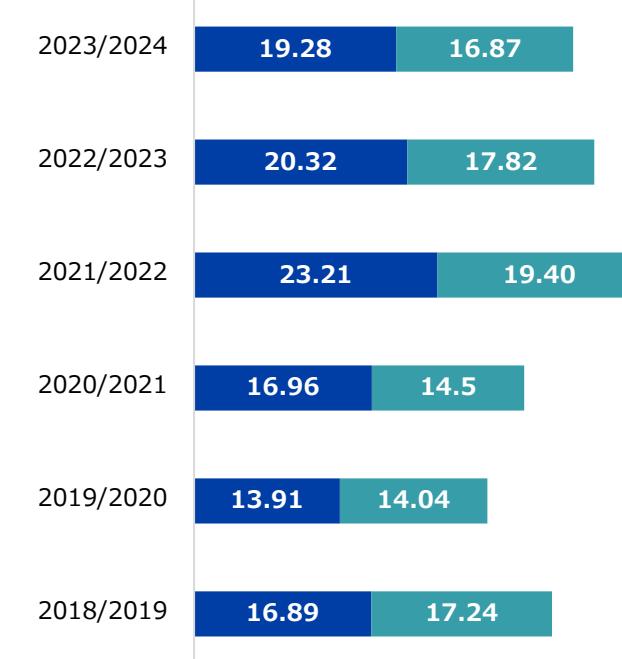
■ 衣料品輸出 ■ 総輸出

(*) バングラデシュの衣料品の輸出額は、2019/2020年度～2023/2024年度にかけて、**29.3%**の成長率を記録している。しかしながら、衣料品輸出額のCAGR（年平均成長率）は、**7.3%**に留まる。

(注) 年度は7月～翌年6月

(出所) バングラデシュ輸出振興庁 (EPB)

会計年度別衣料品の輸出額の割合
(10億ドル)



■ ニット ■ 布帛

(*) 2020/2021年度から、ニット製品の輸出額が布帛製品の輸出額を上回っている。

1-2 | バングラデシュの衣料品産業に関する概要（2）

衣料品業界の概要

3,800+
輸出志向型既製服工場

バングラデシュ全土20県
での事業運営・経営

3,400+
バイヤー数

200+
輸出国・地域数*

工場数（組合・業界団体別）

2,224
バングラデシュ縫製品製造業・輸出業協会（BGMEA）への登録工場数

818
バングラデシュ・ニット製造輸出業協会（BKMEA）への登録工場数

1,095
組合に未登録の工場数

工場数（品目別）

1,659
ニット（編物）製品

1,098
布帛製品

707
セーター製品

420
ニット・布帛製品

(*) バングラデシュ輸出振興庁（EPB）

（出所）BRAC大学ほか「Mapped In Bangladesh」（2023年9月）

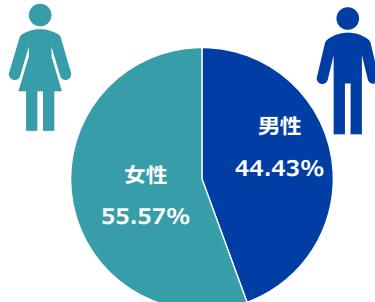
1-3 | バングラデシュの衣料品産業に関する概要（3）

- 2023/2024年度のバングラデシュの衣料品輸出総額のうち、ニット製品と布帛製品の輸出額は、それぞれ約**53.3%**と約**46.7%**を占める。
- 過去6年間に輸出された縫製関連製品は、**34種類（HSコード4桁）**である。

過去6年間の衣料品平均輸出額



工場労働者の男女比

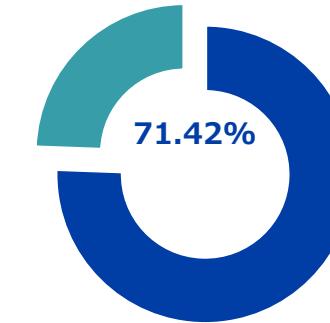


2024年6月現在、バングラデシュ全土の縫製工場に、**501.7万人**の労働者が従事している。

（出所）バングラデシュ輸出振興庁（EPB）

国・地域別の衣料品輸出割合

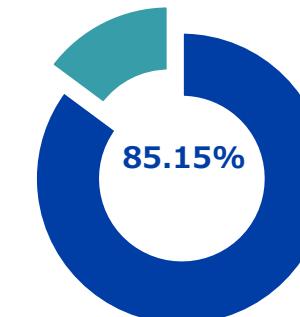
■ Top 10 ■ Others



輸出先上位10カ国が、縫製関連製品の総輸出額の**71.42%**を占める（過去6年間）。

品目別の衣料品輸出割合

■ Top 10 ■ Others



輸出上位10品目は、縫製関連製品の輸出総額の**85.15%**を占める（過去6年間）。

1-4 | バングラデシュの衣料品産業に関する概要（4）

- バングラデシュの衣料品産業の労働者における男女比率は、工場の規模や種類によって大きく異なる。下記の表は、Mapped in Bangladeshのデータをもとに考察された男女比率である。

工場の規模	工場数	全体に占める割合	男女比 (男性 : 女性)
小規模 (従業員数1~50名)	211	6.57%	51.20 : 48.80
中規模 (従業員数51~1,000人)	2,210	68.80%	38.26 : 61.74
大規模 (従業員1,000人以上)	791	24.63%	43.13 : 56.87

工場の男女比率（規模別）

- 大規模工場では、縫い合わせなどの縫製作業で、伝統的に女性が担ってきた役割に依存しているため、労働力の大部分は女性である。
- 中規模工場では、女性労働者の割合が高く、男性の割合は、38%に留まる。
- 小規模工場では、男性がわずかに多数派（51%）を占めており、この結果は、生産役割の違いや工場の専門性の違いによるものと考えられる。

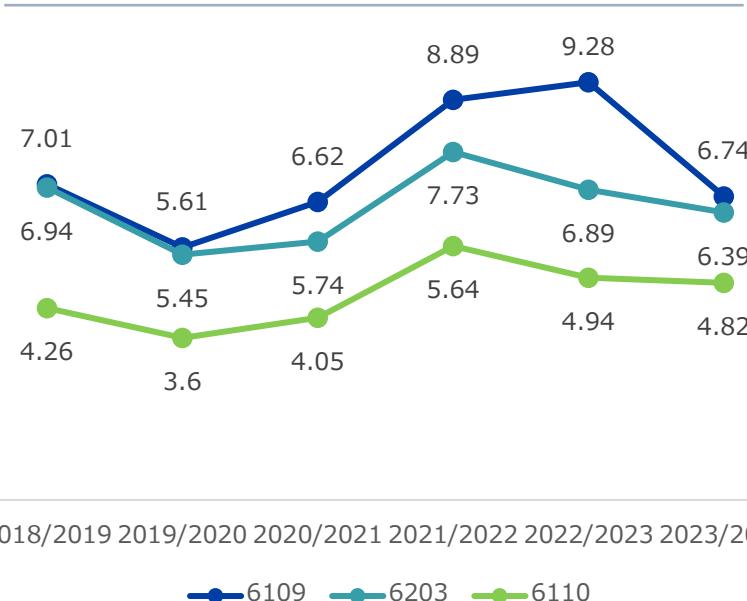
(出所) 「The Ready-Made Garments (RMG) Workers' Gender Ratio in Bangladesh」 (International Journal of Research in Business and Social Science 発行 (2021年10月)

1-5 | バングラデシュの衣料品産業に関する概要 (5)

バングラデシュの輸出上位3品目 (HSコード4桁別、6109、6203、6110)

- HSコード 6109 : ニット・かぎ編みのTシャツ、タンクトップ、その他ベスト (T-shirts, singlets and other vests, knitted or crocheted)
- HSコード 6203 : 男性・男児用のスーツ、アンサンブル、ジャケット、ブレザー、ズボンなど (Men's or boys' suits, ensembles, jackets, blazers, trousers, etc.)
- HSコード 6110 : ニット・かぎ編みのジャージ、プルオーバー、カーディガン、これらに類する製品 (Jerseys, pullovers, cardigans and similar articles, knitted or crocheted)
- 上記3品目の過去6年間での輸出額は、合計で約1,089.1億ドルで、全体の輸出額の51.75%を占めている。
- 過去6年間におけるバングラデシュの主な輸出先のうち、上位5カ国が、全体の輸出額の60.16%を占めている。

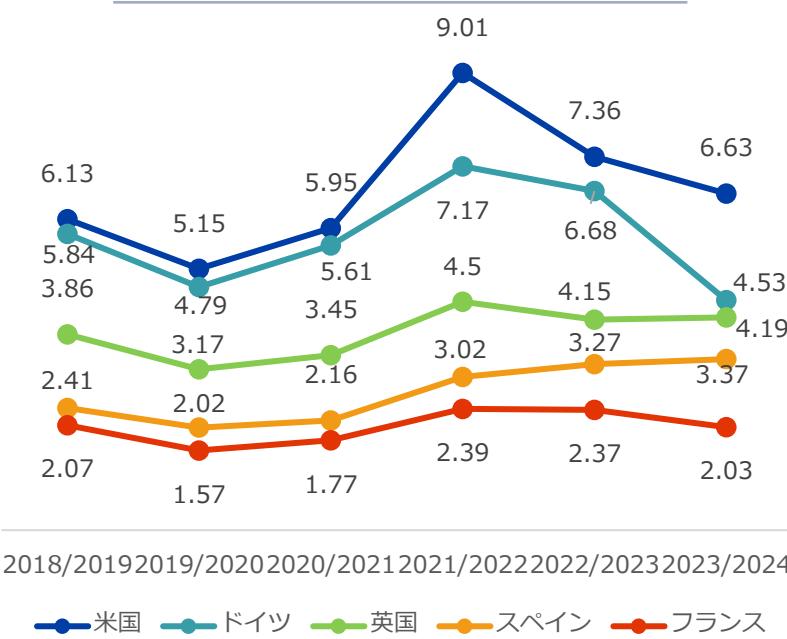
バングラデシュの輸出上位3品目の輸出額の推移
(会計年度別) (10億ドル)



(注) 6109、6203、6110はHSコード

(出所) バングラデシュ輸出振興庁 (EPB)

バングラデシュの主な輸出先5カ国
(会計年度別) (10億ドル)



III. 2024/2025年度の輸出動向

1 | 2024/2025年度の輸出動向

- バングラデシュ輸出振興庁（EPB）は、2024年7月～11月の輸出収入が大幅に増加した（総輸出収入199億ドル）と発表し、前年同期比11.76%の増加となった。

衣料品の輸出動向

- **衣料品の輸出収益の伸び**：衣料品の輸出額は、2024年7月～11月の5カ月間で161.2億ドルに達し、前年同期の143.5億ドルから12.34%増加した。
- **月次実績**：2024年11月だけで33.1億ドルと2023年11月の28.4億ドルから、縫製製品の輸出額は16.25%増加した。

品目別の輸出動向

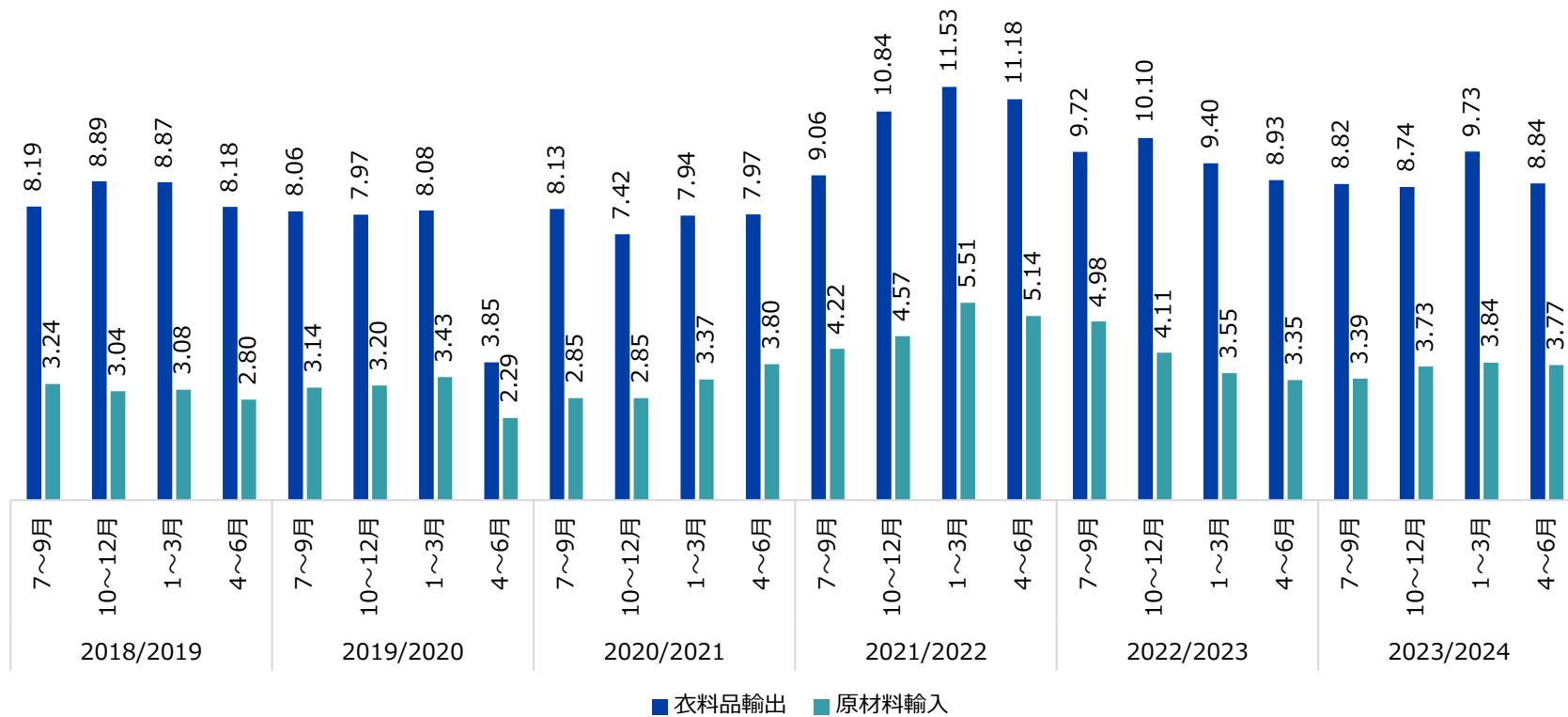
- **ニット（編物）製品**：2024年7月～2024年11月の輸出額は、前年同期比12.23%増加して、89.5億ドル（前年同期は79.7億ドル）となり、2024年11月にはニット製品の輸出額だけで17.4億ドル（前年同月比12.84%増）を記録している。
- **布帛製品**：2024年7月～11月の輸出額は、前年同期比12.48%増加して、71.7億ドル（前年同期は63.8億ドル）となった。布帛製品の輸出額は、2024年11月に15.7億ドルに達し、前年同月比20.28%増となった。

IV. 衣料品輸出推移の分析

1-1 衣料品輸出推移の分析（1）

- 過去6年間のデータによると、バングラデシュの縫製関連製品の輸出入の割合は、輸出額2,104.4億ドルに対して、872.5億ドルの原材料を輸入している。
- 過去6年間の四半期毎の平均原材料輸入額は、36.4億ドルである。
- 綿、綿糸、綿織物の輸入額は、輸入総額の12.7%を占めている（2022/2023年度）。
- 新型コロナウイルスの感染が拡大していた四半期を除き、バングラデシュの四半期毎の縫製産業輸出額は、総額の80%を超える輸出率を維持している。

衣料品における輸出額と原材料輸入額の推移（四半期ごと）（10億ドル）

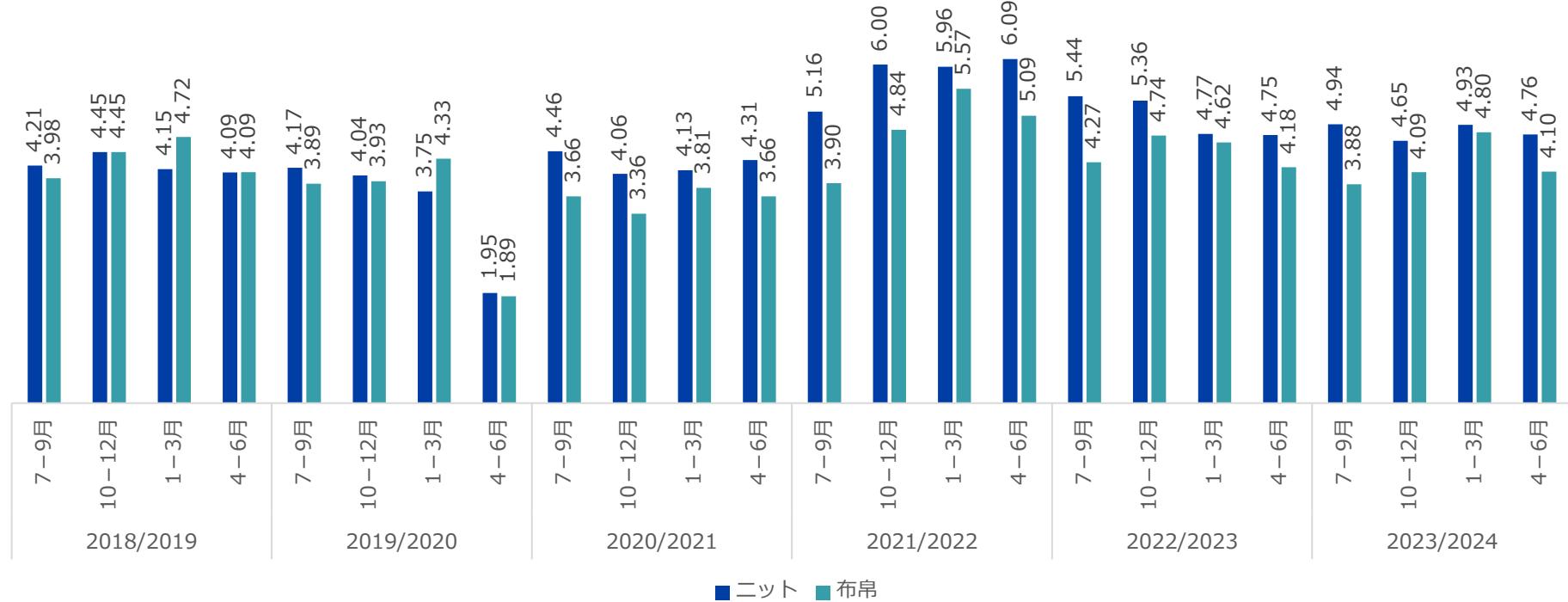


（出所）バングラデシュ銀行

1-2 | 衣料品輸出推移の分析（2）

- 過去6年間の輸出総額のうち、52.5%をニット製品が占めている。
- 過去6年間のすべての四半期で、31億ドル以上を売り上げている（新型コロナ禍時期を除く）。
- 過去6年間のデータによると、ニット製品の輸出で、総額約1,106億ドルを輸出している。

衣料品における品目別の輸出額推移（四半期毎）（10億ドル）

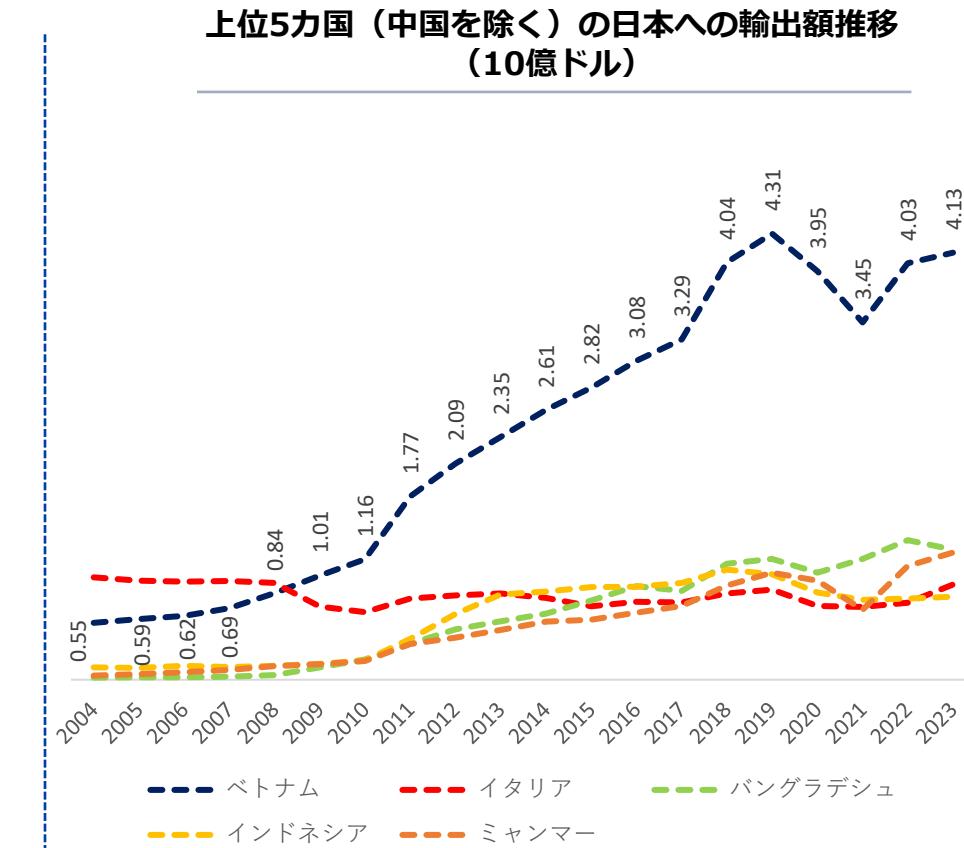
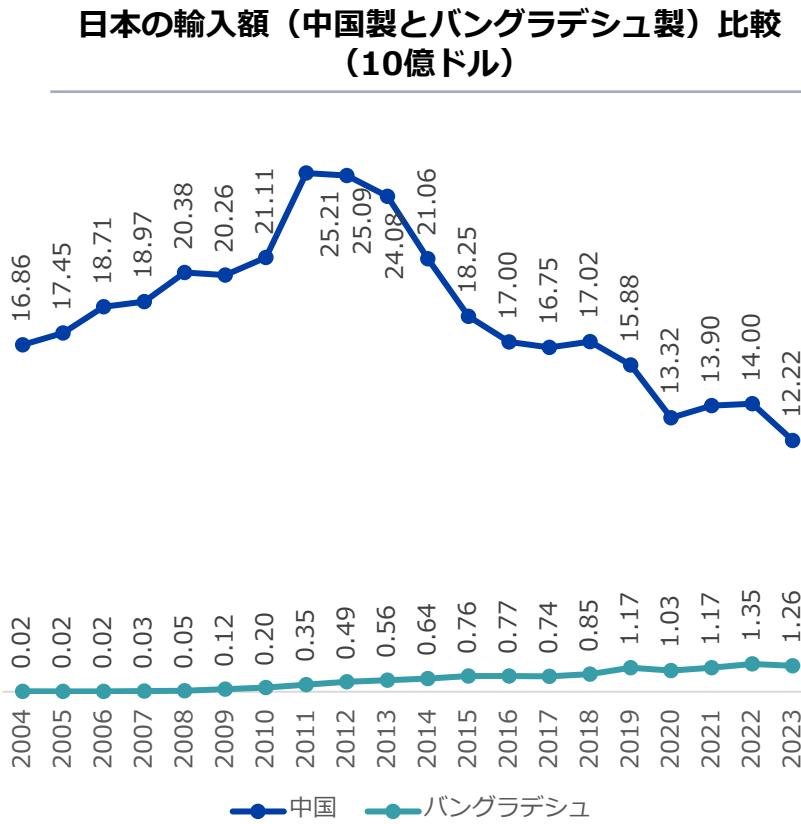


（出所）バングラデシュ輸出振興庁（EPB）

V. 日本における衣料品の輸入動向

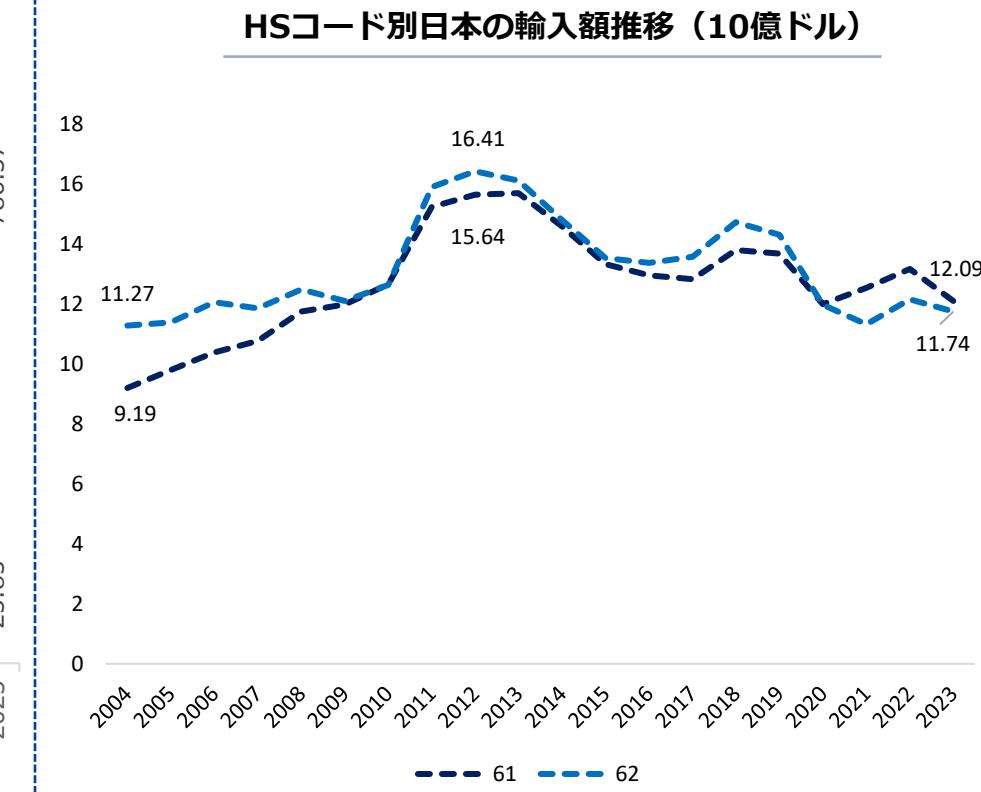
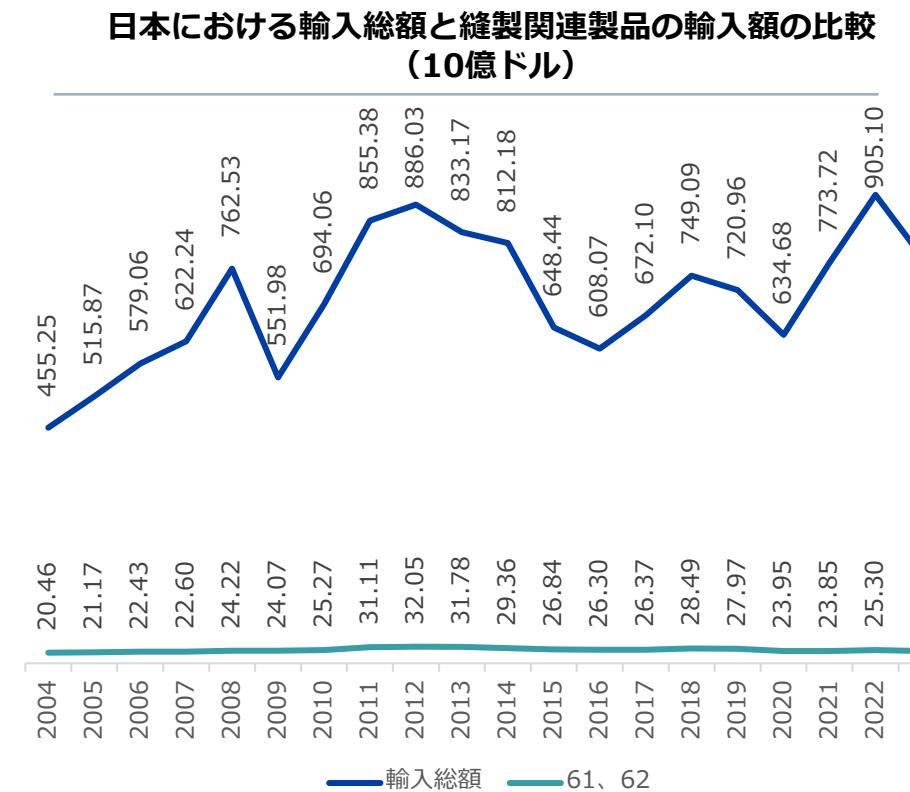
1-1 | 日本における衣料品の輸入動向（1）

- 2004年～2023年の20年間で、日本は約5,174.1億ドルの縫製関連製品を輸入している。
- 2018年以来、バングラデシュは毎年10億ドル以上の縫製製品を日本に輸出している。
- 日本の主な縫製製品輸入元国は、中国を除くと、ベトナム、イタリアが最大の供給国である。



1-2 | 日本における衣料品の輸入動向 (2)

- 2004年～2023年の20年間で輸入した縫製製品のうち、HSコード別の輸入額は、HSコード61が約2,538.6億ドル、HSコード62が約2,635.4億ドルとなった。
- 過去20年間で、日本の縫製製品の輸入額が最も高かったのは、2012年の320.5億ドルであった。
- HSコード61・62の日本への輸入額は、減少傾向にあり、輸入品の多くは、時間の経過とともに均等化していると考えられる。



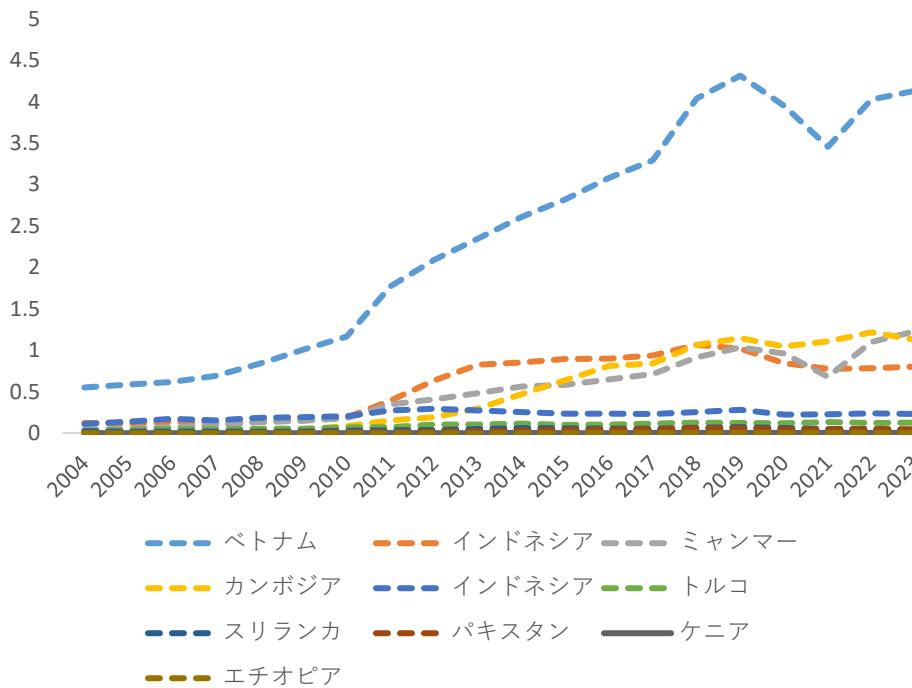
(注) 61、62はHSコード

(出所) Mirror Data, ITC Trade Map

1-3 | 日本における衣料品の輸入動向 (3)

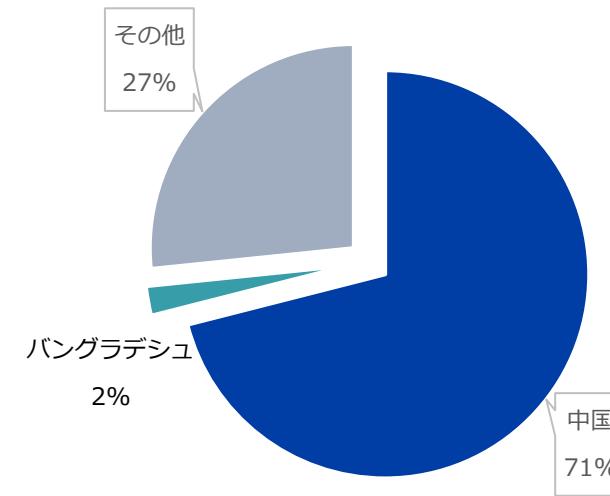
- ベトナムは、過去20年間で約473.8億ドル相当の衣料品を日本に輸出しており、その輸出額は、増加傾向にある（新型コロナ禍を除く）。
- 2004年～2023年のデータによると、日本への衣料品の輸出は、中国、ベトナム、イタリアに次いで、バングラデシュが4番目に大きな供給国となっている。

日本における衣料品の主な輸入元国（2004年～2023年）
ASEAN、東南アジア、東アフリカ（10億ドル）



(出所) Mirror Data, ITC Trade Map

2004年～2023年における日本の衣料品の輸入元国の割合（10億ドル）



VI. 業界団体の取組と現状分析 (BGMEA・BKMEA)

1-1 | 業界団体の取組と現状分析（BGMEA）（1）

バングラデシュ縫製製造輸出業者組合（BGMEA）

設立：1983年

会員数：バングラデシュ全土の約4,000社の縫製関連工場

世界的な役割：衣料品産業、特に布帛製品、ニット（編物）製品、セーター等の製品を代表する国内最大の同業者組合の一つ。

バングラデシュの縫製関連セクター：成長と投資

輸出実績：12%の輸出増（2024年7～11月）

輸入：毎年100億ドルの相当の原材料を輸入しており、後方連関の必要性を浮き彫りにしている。

主要な市場：バングラデシュの衣料品の最大消費国はヨーロッパであり、貿易協定に基づく免税措置の恩恵を受けている。

今後のニーズ

- 2029年までに生地と衣料品の生産という2段階の加工能力を強化し、市場アクセスを維持・拡大。
- 技術集約型の布帛製品製造への投資を拡大。

1-2 | 業界団体の取組と現状分析（BGMEA）（2）

布帛製品の生産

課題

- エネルギー、資本、技術集約型の生産プロセス。布帛製品は輸入材料の依存度が高い。

機会

- 日本との協力による後方連関改善の可能性。日本からの投資により、国内市場および輸出市場向けに、より高品質な生産が可能となる。

免税アクセス

- バングラデシュから日本への輸出に関税がかからない一方で、日本の小売業者は8~10%の税金を納めており、価格競争力が低下している。

持続可能性とコンプライアンス

グリーンファクトリー

- グリーンビルディング認証（LEED: Leadership in Energy and Environmental Design）取得工場231社（うち95棟以上が最高位のプラチナ認証取得）
- プラチナ認定工場は、現在、国内のLEED認定工場全体の40%を占めている。
- ゴールド認定工場は54%を占めており、残りの6%はシルバー認定または認定レベルの工場で、各社上位の認定に重点を置いていることを表している。

持続可能性に向けた取り組み

- 工場での安全性と環境に配慮した製造の大幅な進歩。
- 「プレコンシューマ材」（消費前の材料）管理への注目。

1-3 | 業界団体の取組と現状分析 (BGMEA) (3)

縫製関連産業の主な課題

現在の課題

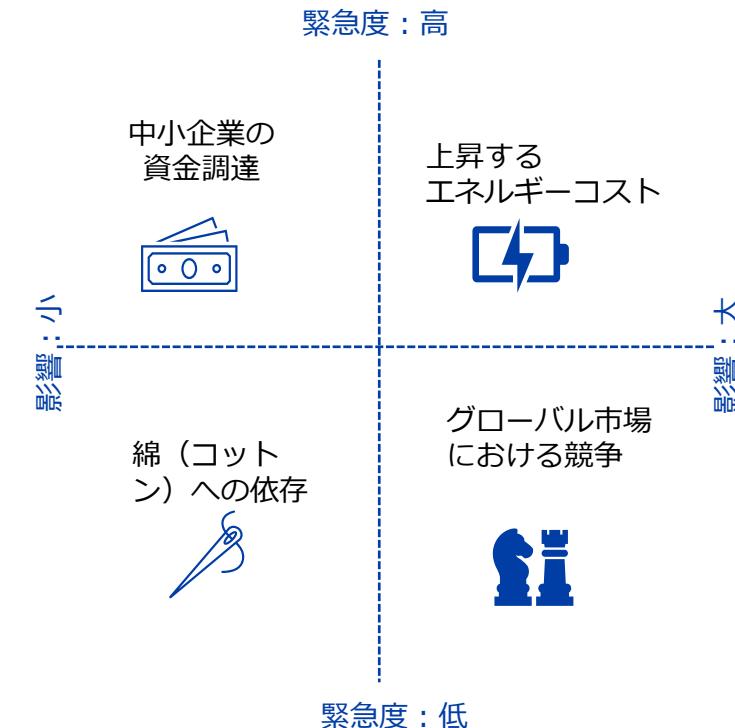
- エネルギー、電気、物価上昇による利益率の低下
- 資金調達（中小企業にとって、依然として障壁となっている）
- 技術、専門知識、製品多様化

依存関係

- 綿（コットン） 製品への過度な依存は、グローバル市場における脆弱性を生み出している。
- 製品カテゴリーの種類が少なく、成長の可能性を制限している。

グローバルシェア

- バングラデシュの縫製産業は、中国、ベトナム、インドとの激しい競争により、グローバルシェアは、7.5%にとどまる。



1-4 | 業界団体の取組と現状分析（BGMEA）（4）

バングラデシュにおける課題

LDC卒業後の関税率

- 現在の依存度：後発開発途上国（LDC：Least Developed Country）としてバングラデシュ製品は非課税で輸入されている。
- 2026年以降の影響：経済連携協定（Economic Partnership Agreement：EPA）がなければ、日本への輸出では平均18%の関税が課され、競争力が大幅に低下する。

構造的制約

- 限定的な後方連関：綿以外の生地など、原材料の現地生産が不十分。
- エネルギー集約型産業：布帛製品には大量のエネルギー、技術、資本が必要であり、拡大の妨げとなっている。
- 技術格差：中国やベトナムなどの競合国と比較して、先進的な技術統合が不足している。

生産コストの上昇

- エネルギーおよび原価高騰：電気、ガス、原材料の価格上昇により、利益率が圧迫されている。
- 賃金上昇：縫製関連労働者の給与は、ここ数年で毎年9%上昇しており、コスト構造に影響を与えている。

港湾と物流の課題

- 港湾の混雑：港湾インフラの不整備により、大幅な遅延が発生。
- リードタイム：輸送リードタイムが長期化（90日以上）し、動きの速いグローバル市場での競争力が損なわれる。
- 深海港の不足：大規模な輸出を効率的に処理するための処理能力が不足している。

市場多様化の課題

- 綿への依存：綿製品への過度な依存、スポーツウェアなどの高付加価値の非綿製品セグメントへの投資が限られている。
- EU市場への依存：輸出先としてヨーロッパに過度依存しているため、多様化の可能性が制限されている。

1-5 | 業界団体の取組と現状分析（BGMEA）（5）

成長の機会と今後の展望

新規市場の拡大

- 日本との経済連携協定（EPA）を検討し、欧州や米国などの従来の市場以外への輸出を多様化し、非課税での継続的な貿易量を確保する。
- ブラジルやオーストラリアなどの新興市場開拓を検討し、特に持続可能で高品質な製品に対する新たな需要を開拓する。

技術革新と自動化・省力化への投資

- 生産工程の自動化・省力化や先進的な機械を導入し、効率を高め、労働力への依存度を低減する。
- 布帛分野において、日本と技術移転で協力し、生産の品質と能力を向上させる。

後方連関の強化

- 輸入への依存度を減らすため、綿以外の生地について現地生産を開発する。
- デニム生産能力の増強に重点的に取り組み、原材料の調達に南アジア自由貿易地域（SAFTA）などの地域協定を活用する。

政府による支援と政策による介入

- 新規市場向けに、輸出奨励金や補助金の改善を推進する。
- 港湾施設の改善やリードタイムの短縮など、インフラ開発を支援する。

1-6 | 業界団体の取組と現状分析（BGMEA）（6）

後方連関投資：バングラデシュと日本との戦略的機会

繊維産業の成長

- バングラデシュは繊維原材料の主要輸入国であり、年間約100億ドル相当を輸入している。原材料の国内市場が大幅に拡大し、輸出用縫製関連製品の生産に利用されている。この輸入主導型の市場は、特に日本等からの外国投資家にとって、成長を続ける魅力的な市場への参入機会を提供している。

日本の投資機会

- バングラデシュの繊維産業の成長率は毎年平均12%で、日本からの後方連関投資に適した環境が整い始めている。100億ドル規模に成長しているバングラデシュの繊維原材料市場に直接投資することで、高い利益率と持続可能な成長分野でのシェアを確保することができる。

連携可能性

- バングラデシュの繊維産業に投資する日系企業は、原材料に対する確立された需要から利益を得ることができ、また、同国で生産される商品の品質向上にも貢献できる。この協力関係により、両国は繊維製品の需要増に対応し、二国間の経済関係を強化することができる。

エネルギー供給とLDC卒業への課題

- **エネルギー供給**：拡大する繊維製品の生産を支えるために、十分かつ信頼性の高いエネルギーを確保する必要がある。
- **後発開発途上国（LDC）からの卒業**：バングラデシュのLDCからの卒業（2026年）は、特に一般特恵関税制度（GSP）に基づく非課税での日本市場へのアクセスが失われる可能性があるという点で課題となっている。この不確実性に対処するためには、2026年以降も継続的な市場アクセスを確保するための積極的な対策が必要である。

2-1 | 業界団体の取組と現状分析（BKMEA）（1）

バングラデシュ・ニット製造輸出業協会（BKMEA）

設立：1996年

会員数：バングラデシュ全土の約2,250社のニット関連工場

世界的な役割：バングラデシュのニット（編物）製品を世界の衣料品市場への輸出を促進する。

バングラデシュのニット製品産業：グローバルリーダー

- 輸出優位性**：ニット製品は、バングラデシュにおける最大の輸出産業であり、同国の経済に大きく貢献している。
- 機会**：中国の縫製関連製品の輸出量は、同国のハイテク産業への移行や米中貿易摩擦によって減少しており、バングラデシュにとって大きな市場機会を生み出している。
- 競争優位性**：強力な製造基盤と戦略的な立地条件により、世界的な縫製産業の需要を満たすために適した地理にある。

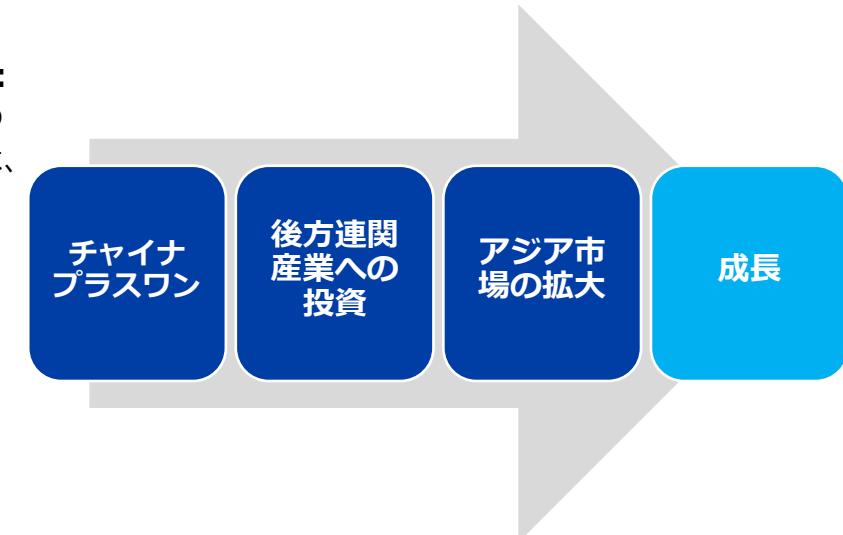
コンプライアンス、安全、投資

- コンプライアンスにおけるグローバルリーダーシップ**：
バングラデシュは、世界最多のグリーンファクトリー（LEED: Leadership in Energy and Environmental Design認証システム取得工場）を有しており、世界的なブランドや輸入業者から注目を集めている。
- 投資家の関心**：大手ブランド、バイヤー、中国の投資家はバングラデシュにおける投資機会を模索しており、縫製工場の移転もその一環である。

2-2 | 業界団体の取組と現状分析（BKMEA）（2）

戦略的成長機会

- **チャイナプラスワン戦略（日本）**：日本の多様化戦略により、
バングラデシュは縫製産業における理想的な代替生産拠点となっている。
- **後方連関産業（Backward Linkage Industries）への投資**：
バングラデシュの輸入原材料の依存を解消することは、日本の投資家にとって大きなチャンスであり、潜在的な投資分野には、合成繊維、繊維から糸、糸から布の生産などが含まれる。
- **アジア市場の拡大**：今後の成長は、中国、韓国、日本、タイ、シンガポールとの強固な貿易関係を築くことが重要である。



縫製関連セクターにおける課題

サプライチェーンの問題

- 不安定なガス供給、高コスト、輸入エネルギーへの依存。
- 深海港不足と複雑な通関手続きにより、他国と比較してリードタイムが長い。

2-3 | 業界団体の取組と現状分析（BKMEA）（3）

衣料品産業における課題

人件費

- 豊富な労働力があるものの、「安価」ではない。
- バングラデシュ：機械オペレーター1人あたりの月給は120～150ドル、助手は100ドルで、合計220ドル以上。
- ベトナム：1人の機械オペレーターが、追加の助手なしで145～200ドルの月給を得ている。

効率ギャップ

- バングラデシュ：労働者の生産効率は約40%で、他主要他国に比して大幅に低い。
- スリランカ、ベトナム、中国：これらの国々では、労働者の効率レベルを60～70%に維持しており、バングラデシュとの大きなギャップが浮き彫りになっている。
- 生産性への影響：この効率性の差は、生産時間と費用対効果の面でバングラデシュの競争力を損なうことになる。

機械オペレーターの給与

国	月額給与
バングラデシュ	\$220+
ベトナム	\$145～\$200

（出所）BKMEA

衣料品製造労働者の生産効率

国	生産効率*
・ベトナム ・中国 ・スリランカ	60%～70%
バングラデシュ	40%

（*）作業の中でミシンを稼働させている割合。

（出所）BKMEA

2-4 | 業界団体の取組と現状分析（BKMEA）（4）

人材育成イニシアティブ

- BKMEAトレーニングセンター**：ダッカ県、ナラヤンゴンジ県、クミッラ県、チョットグラム県にあるトレーニングセンターでは、90%の就職率を誇る労働者研修を行っている。



BKMEAは、5.6万人の労働者を訓練し、縫製関連工場で働くのに適した人材を育成してきた。

能力開発プログラム

- 雇用創出投資プログラム（SEIP）**：当初はドイツ国際協力公社（GIZ）が資金提供していたが、2015年からはアジア開発銀行（ADB）が財務省に対して資金提供し、本プロジェクトは4年間延長された。
- 経済変革に向けたスキル強化**：バングラデシュの労働者を、第4次産業革命に備えるためのプロジェクトが、世界銀行の資金提供によって進行中である。

資金提供元



ASSET PROJECT



2-5 | 業界団体の取組と現状分析（BKMEA）（5）

日本のバイヤーの視点：戦略的な機会

倫理的かつ公正な業務慣行

日本のバイヤーは、ビジネスにおける倫理観と透明性に対する強い責任感で高く評価されており、製造業者に対して公正な価格設定を保証し、相互に有益な関係を築いている。

プレミアム価格設定

- 日本のバイヤーは、欧米のバイヤーと比較すると発注量が少ないものの、高品質な製品に対しては常に高い要求があり、バングラデシュの製造業者にとっては、高付加価値のニッチな市場に焦点を当てる機会となっている。

成長の可能性

- 日本のバイヤーは、チャイナプラスワン戦略のもとで生産拠点の分散に取り組んでおり、バングラデシュの縫製産業は、サプライヤーとしての地位を確立するチャンスを得ている。

バングラデシュに期待すること

日本の市場を攻略するには、次のことに同等の重点を置く必要がある。

- 日本の品質基準を満たすためのトレーニングプログラムへの投資
- 生産性と効率の改善
- サプライチェーンの課題に対処することによる納期遵守

2-6 | 業界団体の取組と現状分析（BKMEA）（6）

BKMEAが提言する業界の成長のための主な提案

LDC卒業の一時停止

バングラデシュは、LDCの区分から移行する前に準備態勢を整えるためにさらに時間が必要である。

生産性効率向上の取り組み

労働者の生産性を向上させるためのトレーニングプログラムや最新機器への投資。

サプライチェーンインフラの強化

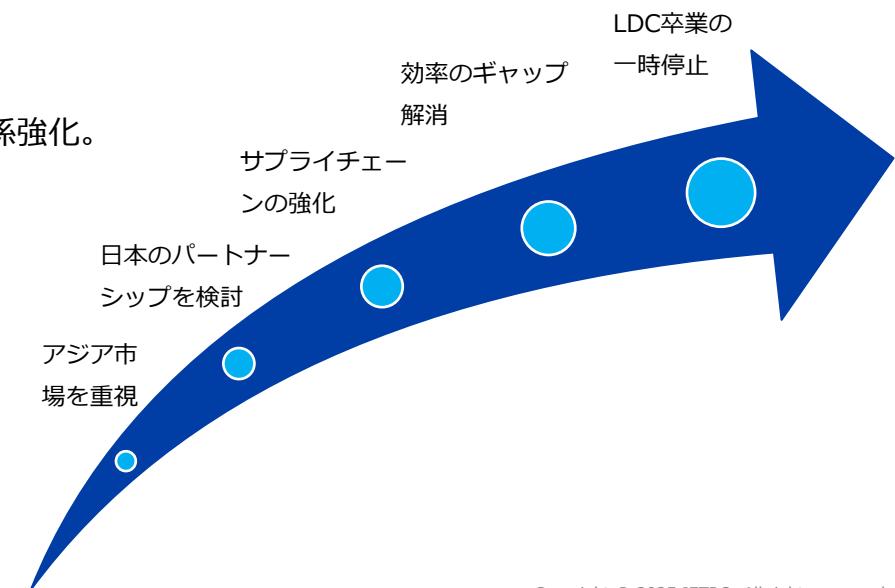
ガス不足の解消、リードタイムの短縮、通関手続きの合理化、深海港の開発による物流効率の改善。

日本のパートナーシップを検討

後方連関投資で協力し、チャイナプラスワン戦略を活用。

アジア市場を重視

アジアにおける今後の成長機会を切り開くための貿易関係強化。



VII. 縫製工場運営者による現状分析

1-1 | 縫製工場運営者による現状分析（1）

バングラデシュの衣料品産業の強み

競争優位性

- マン・マシン比（M/M比）（注）が1:1.9の熟練労働力により、効率的な生産ワークフローを確保。
- 品質保証、コンプライアンス、納期遵守のための強固なインフラ。
- 欧州市場における優位性：ベトナムなどの競合国にはない欧州の関税上の優遇措置。
- バングラデシュからの仕入れにおいては、バイヤーは低価格よりもコミットメントと品質を重視している。

（注）1人当たりの労働力に対して、稼働する機械の台数を意味し、生産効率を計る指標の一つ

オペレーションおよび物流における課題

- **港湾の制約**：深海港がないため、大幅な遅延が発生し、リードタイムが90日以上に及ぶことが多い。港湾の混雑と非効率性により、円滑な輸出業務が妨げられる。
- **原材料の輸入**：輸入原材料への依存はサプライチェーンの脆弱性を生み出す。
- 後方連関産業は依然として発展途上であり、依存度を減らすための投資機会が必要。
- **公共サービスの利用**：パキスタン、インド、ベトナム、ラオスなどの競合国と比較すると、公共サービスは比較的安定しているが、課題もある。

1-2 | 縫製工場運営者による現状分析（2）

労働力と生産性

熟練しているが遅れている

- バングラデシュ人労働者は熟練しているが、高い生産性で知られる中国人労働者の専門知識には及ばない。
- バングラデシュの労働生産性は東アジア諸国と比較すると低く、全体的な効率性に影響を与えている。

コストに関する課題と現状

- 人件費は安いが、関連する運用費により、人件費対コストの比率は競争力に欠ける。
- 試験ラインにおける新たな傾向として、作業員を減らし、機械を増やすことで、自動化へのシフトが見られる。

市場における位置付けと拡大のチャンス

非伝統的市場

- 日本、オーストラリア、ブラジル、南米などに輸出機会があり、製品と市場の多様化が必要。

東アジアでの競争

- 非伝統的な市場では中国、ベトナム、ラオスが優勢だが、バングラデシュのコスト構造は競争優位性を生み出している。欧州のバイヤーは、コンプライアンスと関税上の優遇措置を理由にバングラデシュを好む傾向がある。

1-3 | 縫製工場運営者による現状分析（3）

政策とインフラ整備のニーズ

政情の安定

- 投資家の信頼を醸成し、円滑な取引業務を確保するために不可欠。

物流の改善

- 港湾施設の拡充と通関手続きの迅速化により、混雑と遅延を軽減。

後方連関のためのインセンティブ

- 輸入依存度を低減するための原材料生産産業への投資に対する政府支援。

戦略的利点

独自のセールスポイント

- 制限はあるものの、バングラデシュは多くの競合国よりもインフラコストが低く、納期遵守と高品質な生産に対する評価が高い。
- バイヤーは、品質とコンプライアンスに対するバングラデシュの取り組みを評価しており、将来の成長につながると予測されている。

世界各国との比較

パキスタンやラオスよりも、公共サービスや物流は信頼性が高いが、中国やベトナムには遅れをとっている。

欧州向けの特惠関税は、ベトナムに対する競争優位性を生み出しており、衣料品輸出の重要な推進要因となっている。

1-4 | 縫製工場運営者による現状分析（4）

バングラデシュにおける衣料品産業の今後の展望

効率性への投資

- 自動化、労働者のトレーニングに重点的に取り組むことで、中国のような競合国との生産性レベルに追いつくことができる。
- 第4次産業革命の技術の導入は、バングラデシュの衣料品製造プロセスに革命をもたらすと期待されている。

後方連関産業の強化

- リードタイムと依存度を減らすために、原材料生産のための国内産業を発展させる。

新市場へのフォーカス

- 多様な製品ラインとコンプライアンス遵守をもとに日本、オーストラリア、ブラジルなどを戦略的な新市場としてのターゲットとする。

インフラの改善

- 港湾の非効率性を改善し、物流強化のために深海港に投資する。

政策の改革

- 輸出に対する政府のインセンティブ、安定した政治情勢、汚職の減少によって、未開拓の潜在能力を最大限引き出すことができる。
- 減税、機械の免税輸入、合理化された輸出手続きなどのインセンティブは、衣料品産業の成長に有利な環境を生み出す。

Ⅷ. 日本との経済連携協定（EPA）の可能性

1-1 | 日本との経済連携協定（EPA）の可能性（1）

経済連携協定（EPA）の検討状況

バングラデシュと日本は、2022年12月に経済連携協定（EPA）の共同研究を立ち上げ、2023年12月に共同研究が完了、2024年5月から交渉を開始している。この協定は二国間の貿易と投資の拡大を目的としており、後発開発途上国（LDC）からの卒業を控えたバングラデシュにとって極めて重要な協定の一つである。

交渉の焦点

2024年11月10日～14日までダッカで開催されたEPA交渉の第2ラウンドでは、以下の主要分野が取り上げられた。

- 両国間の物品の流通量を増やすための条件について話し合われた。
- 貿易における物品の原産地を決定するための基準を確立した。
- 税関手続きの簡素化と効率化を視野に入れた。
- 物品以外の分野における貿易機会の拡大。
- バングラデシュへの日本からの投資を促進するための投資と知的財産権の保護。

1-2 | 日本との経済連携協定（EPA）の可能性（2）

EPAの主な推進要因

- EPAは、バングラデシュがLDCから卒業した後も、日本への関税免除を確保する。これは、現行の免税優遇措置がLDC卒業とともに失われるため、重要な検討事項となる。
- EPAに関する要望アンケートや研究報告書を発表した日本バングラデシュ商工会議所（JBCCI）は、これらの協議を促進し、プロセスを前進させる上で重要な役割を果たしている。

将来的に与える影響

- EPAを通じて関係を深めることで、バングラデシュは日本への輸出を増加させ、より多くの日本からの投資を誘致し、日本市場への継続的なアクセスを確保できる可能性がある。これは、LDC卒業後の同国の経済成長にとって重要な要素である。

IX. バングラデシュにおける衣料品輸出市場

1-1 | バングラデシュにおける衣料品輸出市場（1）

概要

- 様々な市場アクセス：インディテックス（Zara、マッシモ・ドウッティなどを展開）やプライマークなどの主なバイヤーからの発注は増加傾向にあり、2023/2024年度のインディテックスからの購入額は12.8億ドルである。これらのバイヤーは、米国、欧州、アジアなどの世界各国にバングラデシュ製品を販売している。
- 手頃な価格の衣料品：バングラデシュの衣料品は、主に安価な衣料品需要に応えており、上位バイヤーの1着あたりの平均価格は、2.50ドル～5.41ドルである。特にユニクロ（ファーストリテイリング）は、1着あたり5.41ドルという高い平均価格で衣料品を購入している。
- 高級ブランドの進出：ルイ・ヴィトンやグッチなどの高級ブランドはバングラデシュから直接衣料品を調達していないが、アディダス、ラルフ・ローレン、ルルレモンなどの有名ブランドは小ロットで製品を調達しており、1着あたりの価格が高くなっている。
- H&M、インディテックス、プライマークなどを含む上位10社のバイヤーの購入金額は、バングラデシュの2023/2024年度の衣料品輸出総額（363.7億ドル）の約29%に当たる105億ドルに上る。
- H&Mは、バングラデシュの最大のバイヤーであり、バングラデシュの200を超える工場から25.9億ドル相当の衣料品を調達し、毎日2,000着以上を出荷している。



（出所）現地報道機関Prothom Alo社記事（Top 10 foreign companies that source garments from Bangladesh）

主なバイヤー上位10社のうち1着あたりの購入金額が高いバイヤー（ドル/着）



（出所）現地報道機関Prothom Alo社記事（Top 10 foreign companies that source garments from Bangladesh）

1-2 | バングラデシュにおける衣料品輸出市場（2）

市場動向と今後の見通し

- **発注量は増加傾向**：バングラデシュの衣料品輸出は成長を続けており、大手小売業者の発注量は年々増加傾向にある。特にC&A、マーカス・アンド・スペンサー、ユニクロは購入量を大幅に増やしており、世界の衣料品サプライチェーンにおけるバングラデシュの重要性を強調している。
- **多様化の機会**：中国やベトナムなどとの激しい競争にもかかわらず、バングラデシュの衣料品部門は、コスト効率、熟練した労働力、サプライチェーンの多角化を背景に成長を遂げており、今後、付加価値の高い製品や高品質の衣料品の可能性も高まっている。

衣料品産業の特徴

- バングラデシュは、大手ブランド企業の主要サプライヤーとしての世界的な地位を確立しており、新市場への多角化は今後も続くとみられる。ペプコ（Pepco）などの企業がバングラデシュで大量生産していることは、低価格ファッショントマトの潜在的なチャンスがあることを示している。
- 衣料品業界がエシカルなサプライチェーンに一層重点が置かれる中で、多国籍バイヤーからの需要に応え、バングラデシュが競争力を維持するためには、持続可能性と労働者福祉の改善が必要である。

X. バングラデシュの縫製工場労働者の賃金

1 | バングラデシュの縫製工場労働者の賃金

- バングラデシュの縫製工場労働者の月額最低賃金は、2023年に72.90ドルから113ドルに改定され、2024年12月から毎年9%の値上げが実施されている。しかし「Anker Methodology Benchmark (2023年)」によると生活賃金の基準は159.63ドルであり、113ドルでは依然として基準を下回っており、公正な最低賃金の設定に向けてさらに取り組む必要がある。

概要

2024年の年間賃金上昇率

- 縫製工場労働者は、これまでの最低賃金の9%の賃上げ（最低賃金委員会から要請された5%と追加増額の4%）が実施される。
- 今回の最低賃金は、2024年12月1日の改定に基づき、2025年1月からの給与に反映される。

2023年11月の最低賃金改定

- 縫製工場労働者の初任給最低賃金は、72.90ドルから113ドルに引き上げられ、約55%の大幅増加となる。今回の最低賃金見直しまでは、2018年に改定された72.90ドルを維持していた。

歴史的背景

- 最低賃金は、2013年に68ドルに設定された後、2018年に72.90ドル、2023年に113ドルに引き上げられた。しかしながら、アンカー研究所の「Anker Methodology Benchmark (2023年)」では、縫製工場労働者のグレード7の労働者が生活費を賄うには最低でも159.63ドルの収入が必要であると示されている。現在の最低賃金である113ドルは、このベンチマークを約29%下回っている。

XI. 縫製産業に対する産業政策・支援策

1-1 | 縫製産業に対する産業政策・支援策（1）

- バングラデシュの繊維・縫製産業は、同国の経済に大きく貢献しており、競争力と持続可能性を維持するために政府による政策支援が重要となっている。変化する操業上の課題に対応するため、バングラデシュ政府とバングラデシュ銀行（中央銀行）は、産業発展のための政策を実施している。縫製産業の成長を持続するための主要な政策は以下の通り。

出荷前クレジット制度（Pre-Shipment Credit Scheme）

バングラデシュ銀行が導入した出荷前クレジット制度は、新型コロナウイルス感染拡大に対応して、輸出志向産業を支援することを目的としている。500億タカ相当の回転資金（リボルビングファンド）は、借入側で5%、銀行で2%の低金利で融資を提供している。融資期間は1年であったが、3年に延長され、起業家は一定期間内に複数回の借り入れが可能となり、輸出産業の成長促進が期待される。

輸出拡大へのインセンティブ

輸出を強化するため、バングラデシュ政府は2021/2022年度にインセンティブを導入した。中小企業、新製品、新市場（米国、カナダ、アラブ首長国連邦を除く）に対する4%のキャッシュ・インセンティブ、欧州圏をターゲットとする輸出業者に対する追加の2%のキャッシュ・インセンティブ、縫製産業に対する1%の特別インセンティブが設定されていた。これらの取り組みは、2021年7月1日～2022年6月30日まで実施された。

1-2 | 縫製産業に対する産業政策・支援策（2）

縫製産業に対する政策の枠組み

GX（グリーントランスフォーメーション）ファンドは、当初は繊維、皮革、ジュート産業向けの2億ドルの借り換えプログラムとして2016年に開始されたが、2019年には、すべての製造業と輸出志向産業を対象に拡大された。この取り組みは、持続可能で環境に配慮した生産の促進を期待している。

フランス開発庁（AFD）による安全・修復基金

フランス開発庁（AFD）の支援を受けて、縫製工場の安全性、環境コンプライアンス、社会的基準を向上させるために5,000万ユーロの基金を設立した。この取り組みは、バングラデシュの縫製産業を近代化し、国際基準に合わせることを目的としている。.

輸出に対するキャッシュ・インセンティブ

2018/2019年度、バングラデシュ政府は、関税担保と関税還付制度に代えて、特定の輸出品目に対する輸出補助金またはキャッシュ・インセンティブを導入した。主なインセンティブには、輸出志向の衣料品、中小企業、新規市場拡大に対する4%のキャッシュ・インセンティブと、欧州圏輸出に対する2%のキャッシュ・インセンティブが含まれる。これらのインセンティブは、バングラデシュの輸出競争力の強化に貢献している。

1-3 | 縫製産業に対する産業政策・支援策（3）

輸出開発基金（Export Development Fund : EDF）の金利

輸出を促進するため、輸出開発基金（EDF）ローンの金利が改定された。2024年9月以降、バングラデシュ銀行は、各商業銀行に対して年率でSOFR+0.50%の金利を請求し、各商業銀行は製造業者・輸出業者に対して年率でSOFR+1.50%の金利を請求する。これらの金利は、2024年9月に適用され、国際金融市場との整合性を取りつつ、輸出業者に対しては資金調達環境の適正化を図っている。なお、2022年の通達では、各商業銀行から、製造業者・輸出業者に対して、1%を上限として追加金利を設定できると示されていることから、年率でSOFR+2.50%の金利を請求される場合もある。

輸出開発基金（EDF）の融資限度額

輸出開発基金（EDF）の融資限度額は、BGMEAおよびバングラデシュ繊維工場協会（BTMA）会員は、3,000万ドル、BKMEA会員は2,000万ドルに増額された。金利は、2021年3月31日まで年率1.75%に引き下げられた。これらの措置により、投入資材調達のための外貨資金調達が容易になり、輸出能力が強化された。

景気刺激策の基金

バングラデシュ政府は、新型コロナウイルスの感染拡大中に輸出志向の産業を支援するため、約4億1,667万ドルの景気刺激基金を設立した。この基金は、2%の手数料で労働者の3カ月分の給与を賄うことが想定され、借り手は180日間の猶予期間内に、残額を18回の均等月払いで返済することができた。

輸出促進基金（Export Facilitation Fund : EFF）

輸出促進事前融資基金（EFF）は、新型コロナウイルス感染拡大後、縫製産業を支援するために設立され、実施期間は180日、上限は1団体あたり約1,668万ドルで、原材料調達のための資金調達を対象としている。この取り組みにより、輸出部門の流動性が確保され、回復力の促進が期待された。

1-4 | 縫製産業に対する産業政策・支援策（4）

バングラデシュの衣料品部門における労働法、輸出促進、インセンティブに関する重要な取り組みと推移（1）

2018/2019年度

4月～6月

- 労働法改正や労働組合登録を含む立法改革
- ホットラインの開設と最低賃金の更新
- ドイツ、スウェーデンとの社会的・環境的基準や労働環境改善に関する協力協定
- 福祉、グリーン・トランスフォーメーション、衣料品パーク開発のための基金を設立

2019/2020年度

1月～3月

- 労働法の改正と労働組合の登録
- 監視用の公開アクセス可能なデータベースの導入
- 最低賃金の更新とドイツとの協力協定
- フランス開発庁（AFD）資金、キャッシュ・インセンティブ、福祉基金や衣料品パークの開発などの取り組み

4月～6月

ドイツとの社会的・環境的基準の改善に関する協定と輸出開発基金（EDF）金利の安定化に向けた取り組みにより、輸出促進策を拡大。

（出所）バングラデシュ銀行（協定の詳細については、付録参照）

1-5 | 縫製産業に対する産業政策・支援策（5）

バングラデシュの衣料品部門における労働法、輸出促進、インセンティブに関する重要な取り組みと推移（2）

2020/21年度

1月～6月

- バングラデシュ政府は、縫製産業を安定させるために、出荷前クレジット、輸出開発基金（EDF）、景気刺激基金の実施を優先した。

2021/2022年度

1月～9月

- 輸出開発基金（EDF）は、引き続き中心的役割を果たし、7月～9月にかけては、輸出促進基金によって補完された。

10月～12月

- 出荷前クレジットと輸出インセンティブに重点を置く。

2022/2023年度

7月～9月

- 出荷前クレジット、輸出拡大インセンティブ、輸出開発基金（EDF）に重点を置く。

10月～12月

- 既存のプログラムに加えて、GX（グリーン・トランسفォーメーション）ファンドを追加することで取り組みを強化。

2023/2024年度

1月～3月

- 出荷前クレジット、輸出インセンティブ、グリーン・トランسفォーメーションに対する継続的なサポートの実施。

1-6 | 縫製産業に対する産業政策・支援策（6）

- バングラデシュ輸出政策2024-2027では、14の取り組みが記載されており、新たに承認された政策の中には、2027年度までに総輸出額を1,100億ドルにするという目標が設定されている。

バングラデシュ輸出政策 2024-27

目標達成に向けて、政府は、縫製・繊維部門の支援を目的とした取り組みを設定している。

主な取り組みは、下記の通り。

- 関係当局と連携し、既製服の輸出リードタイムを短縮
- 統合的かつ合理的なコンプライアンスポリシーの開発
- 効率を向上させるための新しいテクノロジーの導入
- 市場を拡大・強化に向けて、現地の繊維・縫製産業に関する見本市を開催
- 潜在的な輸出先国にマーケティング派遣団を派遣
- 国際フェアの企画・参加
- 衣料品の輸出における輸入綿花への依存を減らすため、国内の綿花生産の増産
- 綿花の代替として合成繊維をベースとした繊維・衣料産業の設立に対し、緩やかな条件と低金利で融資を提供し、生産する衣料品の多様化を促進
- 関税・税金免除
- 輸出能力向上に向けて、後方連関産業と前方連携産業を重視
- 競争力強化に向けた研究開発活動の支援

1-7 | 縫製産業に対する産業政策・支援策（7）

縫製産業へのインセンティブ

財政的インセンティブ

- グリーンビルディング（LEED）認証を取得した縫製工場は、法人税を10%（通常税率は35%）に減免する。
- グリーンビルディング認証を取得していない縫製工場は、法人税を12%（通常税率は35%）に減免する。
- 保税倉庫施設を利用することで、100%輸出志向の縫製工場は、原材料を無税で輸入することができる。
- 源泉徴収税（TDS）：輸出所得税から1%が差し引かれる。

キャッシュ・インセンティブ

バングラデシュ政府は、2026年の後発開発途上国（LDC）卒業に備えるための政府計画に基づき、縫製産業の民間部門に提供されているキャッシュ・インセンティブを廃止しつつある。

- 縫製産業への特別インセンティブは0.3%に設定され、以前の0.5%から引き下げられている。
- 新製品・市場多様化のインセンティブは2%に設定され、以前の3%から引き下げられている。

（出所）国家歳入庁（NBR）「SRO-164-AIN/INCOME TAX/2020 & SRO-255- AIN/INCOME TAX/2017」

XII. 競合国とバングラデシュとの比較

1-1 | 競合国とバングラデシュとの比較（1）

世界各国との人件費の比較

- **バングラデシュ**：製造業、特に繊維部門の最低賃金は世界的に最も低い（月額70～100ドル）。
- **中国**：過去10年間で急速に上昇しており、製造業の平均月給は500ドル超。
- **ASEAN**：ベトナムとカンボジアは依然として競争力がある（月額150～200ドル）。マレーシアとタイの賃金は高くなっている（月額400ドル～）。
- **東アフリカ**：エチオピアとケニアでは、特に人件費が低い（月額50～100ドル）。
- **南西アジア**：インドとパキスタンの人件費は低い（月額100～150ドル）ものの、熟練したITエンジニアやサービス分野の賃金は高くなっている。

労働生産性の比較

- **バングラデシュ**：衣料品の生産性は自動化の取り組みにより向上しているが、依然として世界基準には及ばない。
- **中国**：高度な自動化と熟練した労働力により、最も生産性の高い国の一つ。
- **ASEAN**：特にベトナムの電子機器部門とタイの自動車部門において、生産性が着実に向上している。
- **東アフリカ**：技術格差により生産性が低いが、トレーニングと能力開発への外国直接投資（FDI）により改善している。
- **南西アジア**：中程度。インドのITエンジニアや製薬部門の生産性は高い。

（出所）-国際労働機関（ILO）、世界銀行、アジア生産性機構（APO）-

1-2 | 競合国とバングラデシュとの比較（2）

インフラ整備と連結性（コネクティビティ）

- **バングラデシュ**：チョットグラム港のような港湾開発プロジェクトにより貿易の連結性が向上している。日本政府の支援によりマタバリに深海港を開発中である。道路インフラはまだ開発中である。
- **中国**：世界基準の港湾、鉄道、スマートシティを含む広範なインフラ開発。
- **ASEAN**：タイとマレーシアが良好であり、ベトナムでは交通とデジタルインフラが改善。
- **東アフリカ**：道路、鉄道、電力インフラに大きなギャップがあるが、エチオピアの鉄道網は整備されている。
- **南西アジア**：インドのインフラ整備は、高速道路や物流への多額の投資により急速に拡大している。パキスタンは、いくつかの分野で遅れている。

政府の政策と産業への支援

- **バングラデシュ**：免税措置や輸出補助金など、繊維産業に対するインセンティブを設置。
- **中国**：「中国製造2025」政策を通じて、中国政府は、テクノロジーと先進製造業を支援している。
- **ASEAN**：ベトナムとタイにおける貿易優遇措置と工業団地で海外直接投資（FDI）を誘致している。
- **東アフリカ**：特にエチオピアの工業団地における工業化への支援を強化。
- **南西アジア**：インドはITおよび再生可能エネルギー部門に多大な支援を提供している。パキスタンは輸出インセンティブにより繊維産業を支援している。

（出所）世界銀行「Global Infrastructure Outlook」、世界貿易機関（WTO）「Trade Policy Reviews」

1-3 | 競合国とバングラデシュとの比較（3）

市場アクセスと貿易協定

- **バングラデシュ**：EU諸国からのGSPプラス*の恩恵を受け、複数の市場への優遇アクセスを獲得している。
- **中国**：RCEP（地域的な包括的経済連携）や「一带一路」構想のパートナーシップを含む広範な貿易協定を締結。
- **ASEAN**：ASEAN自由貿易地域（AFTA）に基づく強力な地域内貿易とRCEPへの参加。
- **東アフリカ**：世界市場へのアクセスは限られているが、アフリカ大陸自由貿易圏（AfCFTA）の下で貿易は拡大している。
- **南西アジア**：インドは2国間貿易協定に重点を置いており、パキスタンはEUのGSPプラスの恩恵を受けている。

(*): EUの一般特恵関税（GSP）の優遇制度

持続可能性とコンプライアンス

- **バングラデシュ**：LEED認証を受けた縫製工場が、世界的な環境配慮の生産を主導している。
- **中国**：環境の持続可能性への重点強化と主要分野における排出量の削減に取り組んでいる。
- **ASEAN**：タイとマレーシアは強力なESG（環境、社会、ガバナンス）フレームワークを採用している。
- **東アフリカ**：持続可能な農業に重点を置き、徐々に改善が進んでいる。
- **南西アジア**：インドは再生可能エネルギーと持続可能な製造業を推進しており、他国はコンプライアンスを徐々に改善している。

持続可能な開発報告書2024のESGスコア

ベトナム	中国	トルコ	インドネシア	スリランカ	カンボジア
73.32	70.85	70.47	69.43	67.43	64.9
バングラデシュ	インド	ケニア	ミャンマー	パキスタン	エチオピア
64.35	63.99	62.17	62.82	57.02	55.24

(出所) WTO 「Regional Trade Agreements Database」、Apparel Resources Bangladesh、国連持続可能な開発ソリューションネットワーク (SDSN) 「Sustainable Development Report」

1-4 | 競合国とバングラデシュとの比較（4）

- バングラデシュ、中国、ASEAN、東アフリカ、南西アジアの地域比較では、人件費、生産性、インフラ整備、政府支援などの主要分野の違いが浮き彫りになっている。
- バングラデシュは、縫製・繊維産業の安価な労働力が魅力であり、中国は生産性と高度なインフラ整備でリードしている。
- ASEAN諸国は、コストと貿易ネットワークへのアクセスのバランスが取れているが、東アフリカと南西アジアは、成長の可能性と政府のインセンティブのレベルが異なっている。

比較マトリックス（6つのカテゴリー別の地域評価を星評価）

項目	バングラデシュ	中国	ASEAN	東アフリカ	南西アジア
人件費	★★★★★	★★☆☆☆	★★★★★☆	★★★★★	★★★★★☆
生産性	★★☆☆☆	★★★★★	★★★★★☆	★★☆☆☆	★★★★☆☆
インフラ整備	★★★☆☆	★★★★★	★★★★★☆	★★☆☆☆	★★★★★☆
政府の支援	★★★★☆	★★★★★	★★★★★☆	★★★☆☆	★★★★★☆
市場アクセス	★★★☆☆	★★★★★	★★★★★☆	★★☆☆☆	★★★★☆☆
持続可能性とコンプライアンス	★★★☆☆	★★★★★☆	★★★★★☆	★★☆☆☆	★★★★☆☆

付録

付録

ドイツとの協力協定（2018/2019年度4月～6月）

- バングラデシュ政府とドイツ国際協力公社（GIZ）の間で、バングラデシュの繊維産業における社会的・環境的基準を改善する協力協定。GIZは、縫製工場での公正な賃金、火災安全対策、安全な化学物質の取り扱いについて、約3万人の中間管理職とスタッフに対して訓練を実施し、「工場改善プログラム」の下で、1,000社の工場の労働条件が大幅に改善された。

スウェーデンとの協力協定（2018/2019年度4月～6月）

- 2015年9月26日に、バングラデシュ政府とスウェーデン政府の間で協力協定が締結され、国際労働機関（ILO）と連携して、2020年12月31日までの「バングラデシュ縫製産業における社会的対話と調和のとれた労使関係の促進プログラム」の下、特に職場レベルでの雇用者と労働者間の対話の改善を通じて、バングラデシュ縫製部門の職場の権利と労使関係を強化することを目指している。

ドイツとの協力協定（2019/2020年度4月～6月）

- 2018/2019年度の協力協定と同様、バングラデシュ政府とGIZの間で、バングラデシュの繊維産業における社会的・環境的基準を改善する協力協定。GIZは、縫製工場での公正な賃金、火災安全対策、安全な化学物質の取り扱いについて、約3万人の中間管理職とスタッフに対して訓練を実施し、「工場改善プログラム」の下で、1,000社の工場の労働条件が大幅に改善された。

レポートをご覧いただいた後、 アンケートにご協力ください。

(所要時間: 約1分)

<https://www.jetro.go.jp/form5/pub/ora2/20240057>



レポートに関するお問い合わせ先

日本貿易振興機構（ジェトロ）

調査部アジア大洋州課



03-3582-5179



ORF@jetro.go.jp



〒107-6006
東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル6階

■ 免責条項

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロは一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。

禁無断転載